

平成 26 年 2 月 13 日

会 議 概 要

審議会等の名称		平成 25 年度 第 3 回市川市社会教育委員会議	
開 催 日 時		平成 26 年 2 月 13 日（木）14 時 00 分 ～ 16 時 00 分	
開 催 場 所		市川教育会館 多目的室	
出席者	委 員	古賀正一委員長、伊藤雅子副委員長、丸山賢治委員、清水輝和委員、ハリス貴子委員、緒方紀子委員、天野敏男委員、原由美委員、田中幸太郎委員、滝沢直樹委員、秋山忠 彌 委員、成田久江委員、谷本久生委員、千坂行雄委員	
	所 管 課	生涯学習振興課	
	関 係 課	青少年育成課、社会教育課、自然学習課、中央図書館、考古博物館	
議題及び会議の概要		公開・非公開 の別	非公開の場合の理由
「学校支援実践講座」次年度の方向性について（議事）		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
「市川市立図書館中期運営基本方針（仮称）」について（議事）		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
「第四次生涯学習推進計画」策定方針および「生涯学習アンケート」 e モニター調査結果について（報告）		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
		公開・非公開	・会議公開指針第 6 条第 号該当 ・公文書公開条例第 8 条第 項第 号該当
傍聴者の人数	0 人		
閲覧・交付資料	・「学校支援実践講座」実施報告 ・図書館中期運営基本方針（仮称）資料 ・第四次推進計画策定方針資料および e モニ実施結果報告書		
特 記 事 項			
所 管 課	生涯学習部 生涯学習振興課（内線：4315）		

平成25年度 第3回社会教育委員会 会議録

2月13日（木）14:00～16:00

市川教育会館 3F 多目的室

■出席者

社会教育委員 古賀 正一 委員長、伊藤 雅子 副委員長
丸山 賢治 委員、清水 輝和 委員、緒方 紀子 委員、天野 敏男 委員
原 由美 委員、田中 幸太郎 委員、滝沢 直樹 委員、秋山 忠彌 委員
成田 久江 委員、谷本 久生 委員、千坂 行雄 委員（13名）

生涯学習部 千葉 次長、牛尾 生涯学習振興課長、山田 青少年育成課長
秋本 社会教育課長、川元 自然学習課長、松本 中央図書館長
事務局：高梨 主幹、山岸 主幹、田部井-主査、斉藤 主任（10名）

■会議録

発言者	内 容
古賀委員長	・挨拶 および 市川市社会教育委員設置条例に基づく会議成立の確認
生涯学習振興課長 高梨主幹	議題1「学校支援実践講座」次年度の方向性について （詳細は別紙）
千坂委員 高梨主幹	受講者に教職経験者はいるのか。また、市川市のいじめの実態は把握できているか。校長経験者がいる。いじめの実態調査の数値的な情報については、教育委員会内で共有している。
古賀委員長 丸山委員 滝沢委員	こうした講座は、研修として教員が受けるべきではないか。 教員の研修は行われているが、全員が必修ではない。
高梨主幹	この問題を情緒的な話で終わらせてしまっていないのか。この実践の後、次に具体的にどうしていくのかが見えない。全校展開する計画はあるのか。
成田委員	あくまでも未然防止の取り組みであり、子どもたちが、この問題について話し合いを継続できる環境を維持していくことが大事。対象や回数を増やすためには、受講者数を大幅に増やす必要がある。次年度は、7年目教員の研修で活用する方向で考えている。
	千葉県内でも初の良い取り組み。人を集めるには自治会に協力を依頼すると良い。このプログラムを広めていてもらいたい。

緒方委員	学校の参加希望はどのような状況か。
高梨主幹	希望は少なかったため、こちらから依頼して14学級を確保した。
成田委員	学校だけでは解決が難しい問題である。家庭教育学級等で保護者にも話をするべきではないか。
高梨主幹	先日、家庭教育学級でお話しする機会があった。今後も、要望があれば行いたい。
丸山委員	自分の学校でも交流会を行っているが、先生も生徒も考えさせられる場面があった。ただ、学校としては学年の全学級で展開したい。発想を転換して、講座の受講を必修とせず、家庭教育学級生や学校支援コーディネーターの扱う地域人材等も参加できるようになっていくと良いのではないか。
高梨主幹	今年度受講者の8割が、次年度も参加を希望している。何年か継続していけば、受講経験者の数も全校展開可能な数に届くと考えている。
原委員	学校は手を挙げにくいのだろうが、希望ではなく、交流会が必要な学級に対して実施するということとはできないのか。
古賀委員長	校長のリーダーシップ次第ではないか。
高梨主幹	あくまでも未然防止の取り組みであり、本事業だけでこの問題に対応できるとは考えていない。
田中委員	万能ではないと思うが、コミュニティサポート委員会等を活用して、アウトプットを増やすことを検討すべきではないか。
牛尾課長	今後、当課の「家庭教育学級運営事業」「コミュニティサポート事業」とも連携させ、積極的に人材を集め、実施学級数を増やす方向で検討していく。
古賀委員長	学校教育部との連携も、より強化させていくべきだろう。
中央図書館長	議題2「市川市立図書館中期運営基本方針（仮称）」について (別紙参照)
古賀委員長	評価はどのように行うのか。
中央図書館長	アウトプットや時系列で比較できるものについて、HPにアップする予定。
古賀委員長	今後のあるべき姿は、どのようなものと捉えているのか。
中央図書館長	武雄市の例等、従来にない運営をするところもあるが、全国的に見てベンチマークとされるレベルにあると認識している。今後も、教育委員会や子ども部との連携を図り、さらに充実させていく。
成田委員	大学との連携とあるが。
中央図書館長	千葉商科大学・和洋女子大学との連携を進める。
成田委員	受験生や大学生だけではなく、それ以外の市民も利用しやすい工夫がほしい。
中央図書館長	学校には図書室があるが、市民には図書館しかない。社会人席は70席ほど確保している。
伊藤副委員長	絵本の良さを伝えることに力を入れて欲しい。小さい頃から本に親しむことは、子育て支援の視点からも重要だ。

原委員	子どもの成長をサポートする図書館であってほしい。子育てに関する本を取りに行こうとすれば、こども図書館に子どもを置いて行くか、静かなところに幼い子を連れて行かなくてはならない。
中央図書館長	読み聞かせに関しては力を入れている。学校のサークルへのレクチャーも行うなど、子育て支援に関する取り組みを充実させたい。
谷本委員	指定管理者制度での運営もあるが、問題点は何か。
中央図書館長	民間への丸投げとなってしまうことは問題だろうと考えている。
田中委員	時代によってあるべき図書館の姿、市川らしさが議論されてもいいのでは。
丸山委員	基本方針がなかったのを知らなかった。評価を見ないと議論できないが、方針ということであればこれでいいのではないか。
生涯学習振興課長 山岸主幹	報告事項1「第四次生涯学習推進計画」策定方針および 「生涯学習アンケート」eモニター調査結果について（別紙参照） 先の定例教育委員会において、策定方針が承認されたことを報告する。
滝沢委員	社会参加の意味が含まれていない意見も多いと感じる。
古賀委員長	e モニがあることは市川の強みだ。十分に活用してもらいたい。
事務局 清水委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の配布資料について ・葛南地方生涯学習振興大会の報告 ・その他連絡事項

平成26年 2月 28日 （承認）

市川市社会教育委員長 古賀 正一



■実施報告

第1回 講座 平成25年5月27日(月)

教育講演会「いじめの問題をどう捉えるか」 千葉大学教育学部 藤川 大祐 教授

第2回 講座 平成25年6月24日(月)

研修「ネットいじめ・少年犯罪の現状と課題」 市川警察署 生活安全課 黒岩 美津子 氏

第3回 講座 平成25年7月19日(金)

研修「不登校の現状と課題」 市川市教育センター 小林 恵子 主幹

第4回 講座 平成25年8月26日(月)

小中学校職員合同演習及び事前打合せ

第5回 講座 平成26年1月27日(月)

教育講演会「地域で取り組むいじめ問題」 千葉大学教育学部 藤川 大祐 教授

市川市教育委員会

平成25年度「学校支援実践講座」

■小中学校交流会（日程）

No.	学校名	クラス	学級担任	担当	打合せ	第1時	第2時
1	百合台小学校	5年1組	林 達彦	A	8/30 (14:00学校)	9/4(水) 10:30～11:15	9/4(水) 11:20～12:05
2	百合台小学校	5年2組	園家 森子	D	8/30 (14:00学校)	9/4(水) 10:30～11:15	9/4(水) 11:20～12:05
3	百合台小学校	5年3組	三枝 聡	I	8/30 (14:00学校)	9/4(水) 10:30～11:15	9/4(水) 11:20～12:05
4	妙興小学校	5年1組	久芳 小真紀	B	8/26	9/24(火) 13:45～14:30	9/24(火) 14:35～15:20
5	妙興小学校	5年2組	中山 厚子	H	8/26	9/24(火) 13:45～14:30	9/24(火) 14:35～15:20
6	妙興小学校	5年3組	三浦 直也	D	8/26	■9/27(金) 10:40～11:25	■9/27(金) 11:35～12:20
7	妙興小学校	5年4組	杉田 鮎美	F	8/26	■9/27(金) 10:40～11:25	■9/27(金) 11:35～12:20
8	第六中学校	1年4組	岩崎 剛	I	8/20 (13:00生々)	11/8(金) 13:35～14:25	11/8(金) 14:35～15:25
9	鶴指小学校	5年1組	仲川 謙一	A	8/26	■11/15(金) 14:30～15:15	■●11/22(金) 14:30～15:15
10	南新浜小学校	5年3組	奈良坂 洋輔	J	8/21 (9:30学校)	11/19(火) 10:45～11:30	11/19(火) 11:35～12:20
11	第八中学校	1年4組	尾崎 央司	H	8/26	■11/21(木) 8:45～9:35	■11/21(木) 9:45～10:35
12	第二中学校	1年7組	泉 貴利	F	8/6 (10:00生々)	11/28(木) 13:15～14:05	11/28(木) 14:15～15:05
13	福栄中学校	2年6組	田嶋 三美	J	8/26	11/29(金) 13:35～14:25	●11/29(金) 14:35～15:25
14	大洲中学校	1年1組	原 健	B	8/26	12/6(金) 13:20～14:10	12/6(金) 14:20～15:10

■…藤川教授出席日 ●…7年目研修会

■中学校用プログラム



周囲の大人たちの責任

- ・親は、普段ニヤニヤしているA君の「しょんぼり」している姿に、いつもとは違うことに気づいていたはず。
- ・学校をサボっていたA君に、地域の人が声をかけてあげるべき。

当事者たちの責任（いじめにあったとき、どのような行動をとることができるのか...）

- ・「親や先生に助けを求めると、エスカレートする」でも「誰かに自分の気持ちを伝えられる事が大事」
- ・「ちくる」ことは卑怯なことではない。相談する勇気を...（メッセージ3）

同級生たちの責任（身近なところにいじめられている子がいた時に、自分にできることは何か...）

- ・一番つらかったのは、クラスみんなから無視されたこと。孤立させないことが必要だった。

■中学校生徒の感想より

- ・「自分の周りでこんなことがあったら助けられる人になりたい...」という目標を新たに持つことができた。よい経験になった。
- ・地域の人はとても優しくった。地域のためになる機会があれば参加したいと思った。
- ・色々な意見が出て感心した。これからは、この授業を生かして行動したい。
- ・誰かに頼ることも大切だと思った。今日、学んだことを忘れずに支え合いながら生きていきたい。
- ・ニュースで報道されることもあるが、大事なことは伝わってこないと思った。
- ・いじめっ子に立ち向かうのは、相当な勇気が必要。私も見て見ぬふりをしたはず。だから、私は自分を変えたい。自分の言いたいことを、しっかりと伝えられるようになりたい。
- ・（最近無視されたことがあり）自分の立場だけでなく、相手の立場も考えてあげるという事が（必要だと）分かった...
- ・（自分にも経験があり）どう対処して良いか解らず困った...（大人に助けを求めるべきだった）
- ・（遊び半分でリストカットしたことがあり）辛い思いをして命を絶った方々の分まで生きていなくてはならない... この先に何があろうと、私は生きていきたい...

■交流会の意義

- ・話し合いを重視するため、課題の精選が必要。



- ・「教える」のではなく「気づかせる」
- ・「何となくわかっている」ことを、明確な言葉にして再確認する。
- ・「子どもたちは、大人が考えている以上に、この問題について深く考えている」ことを前提とする。



- ・大人が子どもの気持ちを汲んで（言葉を足して）クラスみんなに伝える。…普段、全員の前で発言できない子も安心して考えを伝えられる。

- ・「課題が理解できていない」可能性や不安があったとしてもあえて解説に時間を費やさない。後日、振り返りと確認を行うことで、継続的にこの問題を話し合うことができる。



■学級担任と受講者の役割

- ・受講者と学級担任に対し、学習プログラムの「ねらい」「交流会の進め方」について十分に話し合い、共通理解を深めることが重要。

- ・全体説明では伝わらないニュアンスも、グループ単位の打合せでは、共有が可能。



- ・受講者には、子どもたちの話を丁寧に聞くと同時に、言葉でうまく表現できない子どもには「それは、こういうこと？」等とサポートすることを依頼する。



- ・学級担任には、交流会で、子どもと地域支援者の話し合いの進行役を担うこと、その後の有効活用を図ることを依頼する。



■学級担任・受講者アンケート 集計結果

4 地域支援者との事前打ち合わせについて	受講者(小学校)	担任(小学校)	小学校平均	受講者(中学校)	担任(中学校)	中学校平均	全体平均
有効性が高い		44.5			80.0		62.2
ある程度の効果は期待できる		22.2			20.0		21.1
あまり効果は期待できない		33.3			0		16.7
ほとんど無効		0			0		0

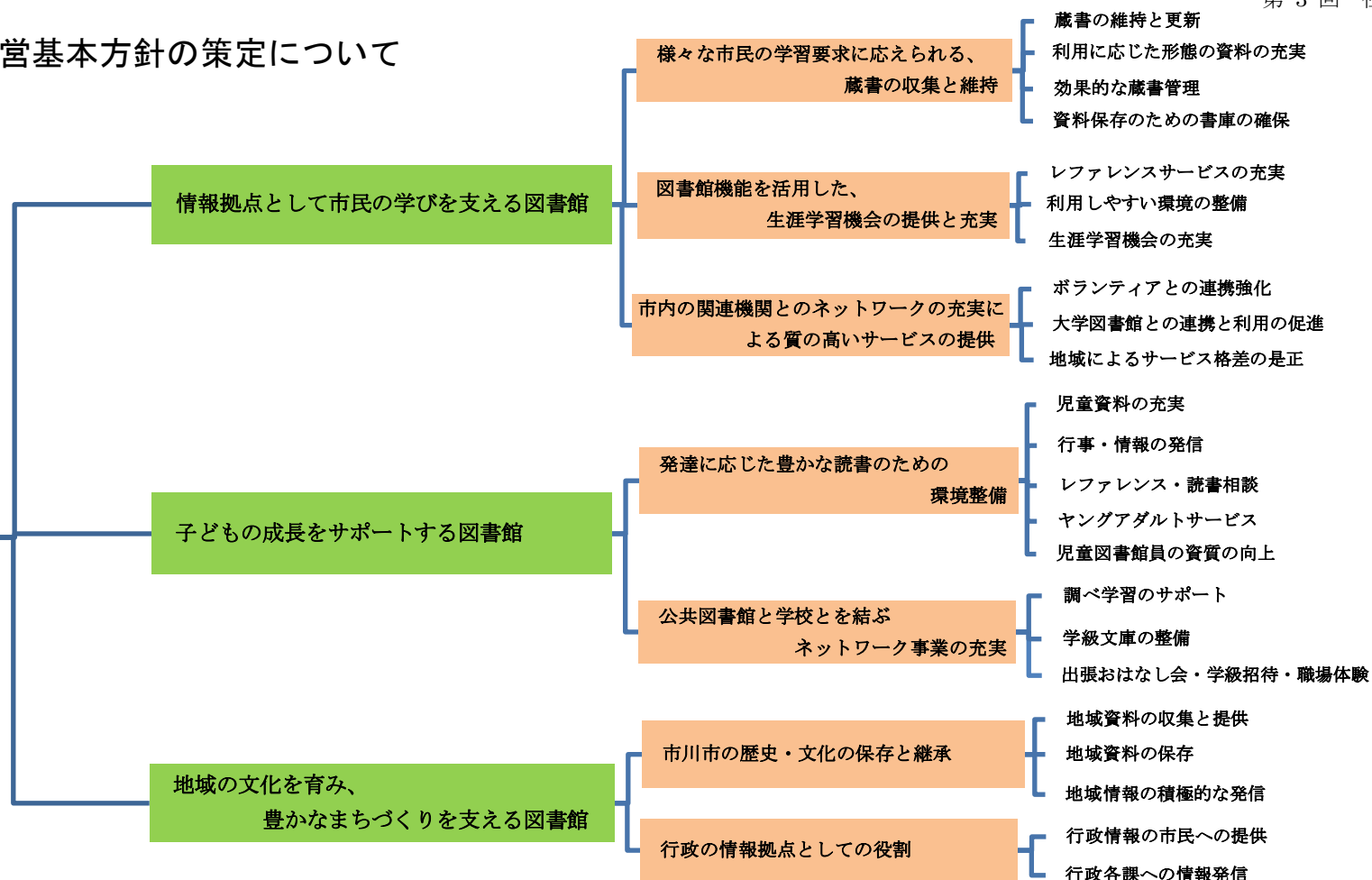
5 交流会当日の地域支援者の役割について	受講者(小学校)	担任(小学校)	小学校平均	受講者(中学校)	担任(中学校)	中学校平均	全体平均
有効性が高い		66.7			60.0		63.3
ある程度の効果は期待できる		33.3			40.0		36.7
あまり効果は期待できない		0			0		0
ほとんど無効		0			0		0

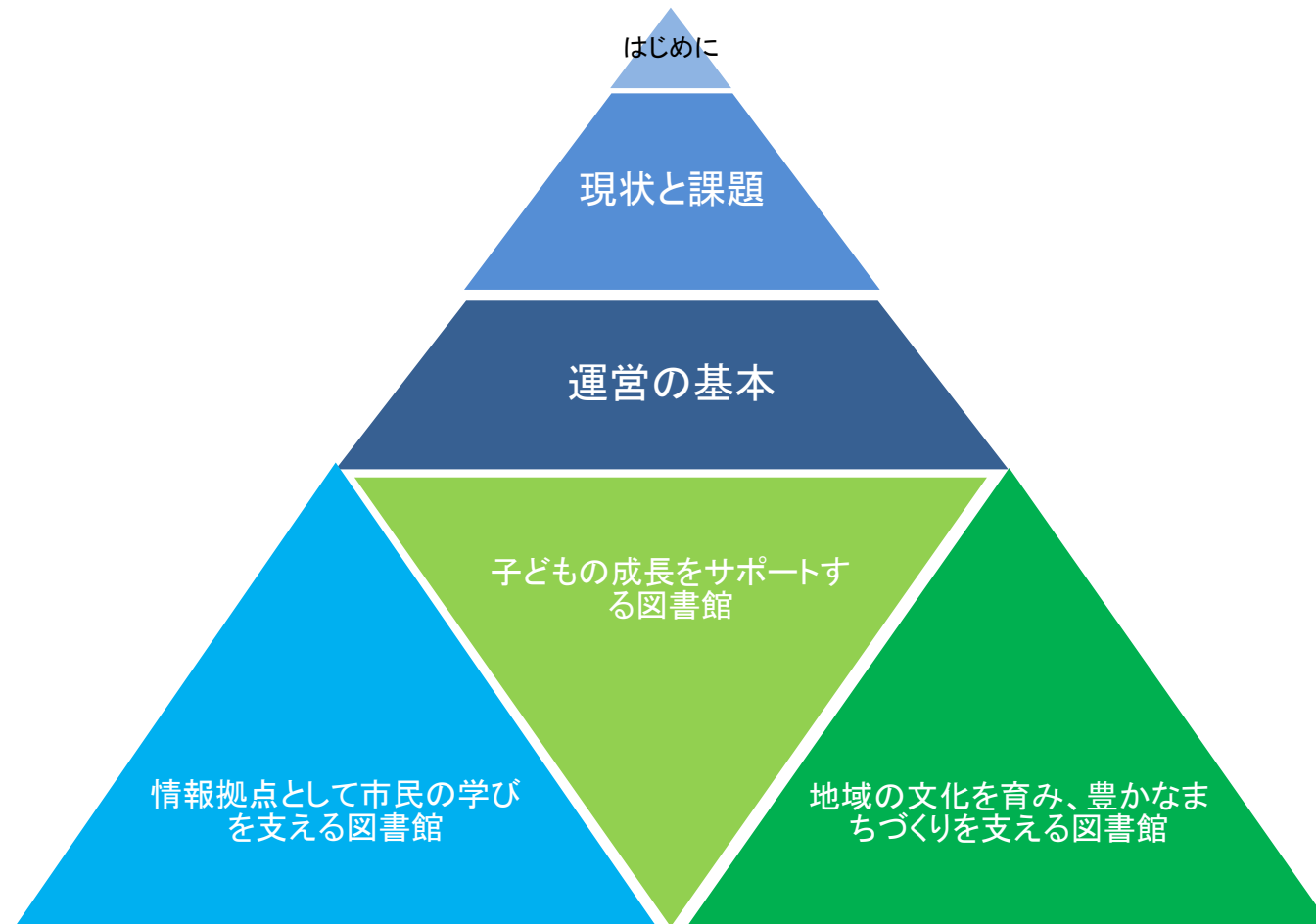
6 本事業全体について	受講者(小学校)	担任(小学校)	小学校平均	受講者(中学校)	担任(中学校)	中学校平均	全体平均
有効性が高い	42.9	11.1	27.0	50.0	80.0	65.0	46.0
ある程度の効果は期待できる	53.6	88.9	71.2	50.0	20.0	35.0	53.1
あまり効果は期待できない	3.5	0	1.8	0	0	0	0.9
ほとんど無効	0	0	0	0	0	0	0

■学級担任アンケート 自由記述

- ・5年生にとっては、少し難しいが、感想は前向きなものが多かった。
- ・いつもと違う方からの話は、とても子どもたちに伝わるように思った。
(2時間集中力をもつか心配だったが)2時間あったから、どの子も馴染め素直に意見が出せた。
- ・自分も含めて、良い経験となった。今後もこうした企画があれば、教えてほしい。
- ・生徒たちの表情がいつもと違う。良い意味で明るさを感じた。また、いつもより発表回数が多く驚いた。
- ・もし同じようなことが起きた時に(今回の事例を)取り上げて話しができる。
- ・大人がうまくリードすることで、活発な話し合いができるのだと改めて感じた。
生徒たちが「いじめ」と向き合う貴重な時間だった。

図書館の運営の基本

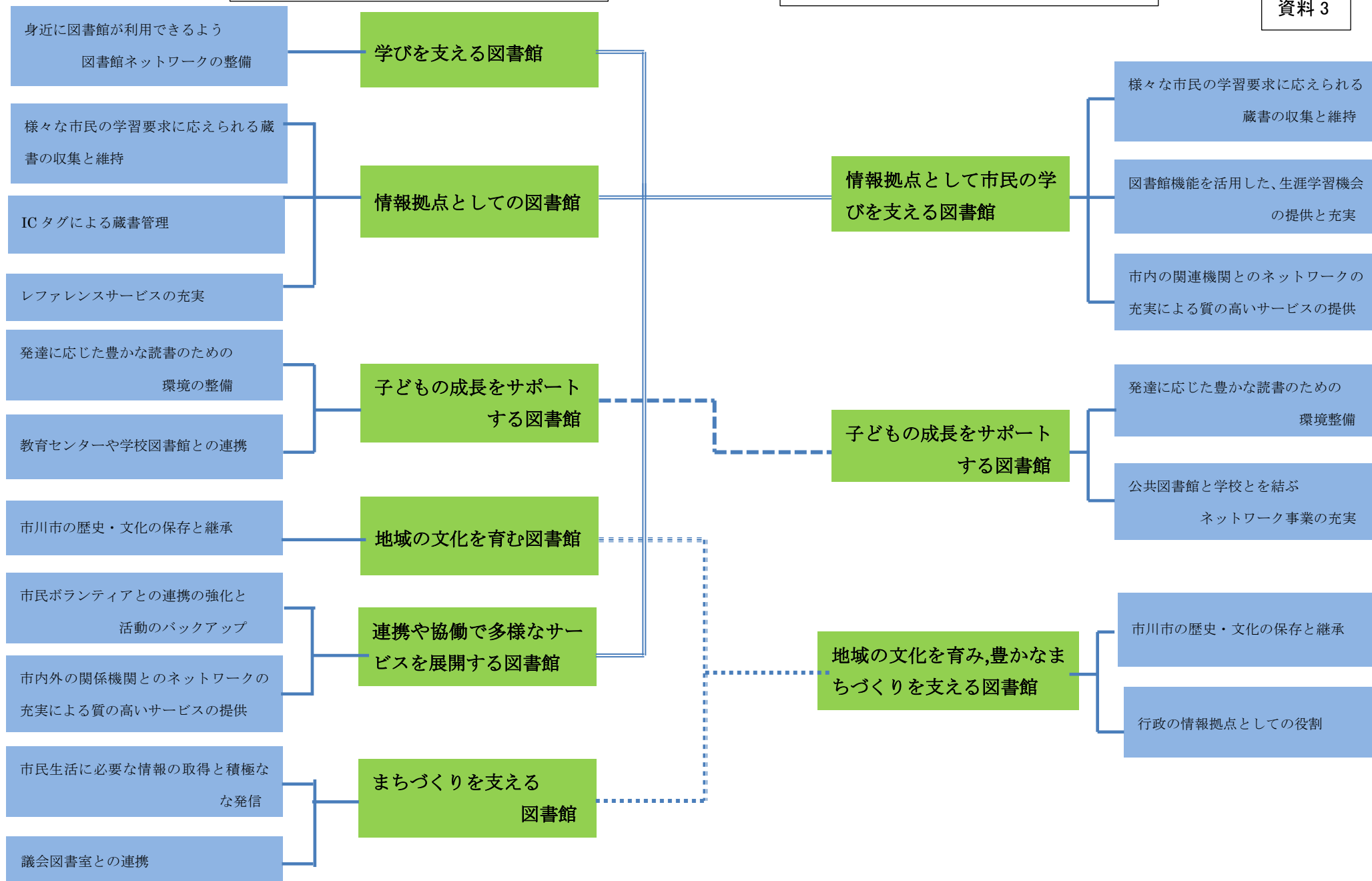
[illegible]



旧⇄新

市川市立図書館中期計画

(仮) 市川市立図書館運営基本方針



市川市立図書館運営基本方針(仮称：案)

平成26年1月

はじめに

市川市の図書館は昭和25年に設置され、60年を超える歴史を刻んでまいりました。昭和32年には葛飾八幡宮境内に初めて独立した図書館が設置され、読書会の育成や独自の什名配架、青少年を対象とした少年室など、先駆的かつ本格的な公立図書館サービスを開始しました。その後、自動車図書館による巡回サービスや、行徳、信篤、南行徳の各図書館、平田図書室の整備を経て、平成6年には市民の念願であった中央図書館が建設され、地域図書館の支援や、新時代に対応する図書館サービスを展開してまいりました。平成21年には指定管理者制度を導入し、JR市川駅に直結する再開発ビル内に市川駅南口図書館を設置しました。現在、本市においては、中央図書館を旗艦とした、6館1室体制により図書館サービスを運営しております。

本市図書館は今日に至るまで、幅広い資料の収集と提供、子ども読書活動の推進、図書館ネットワークの整備と拡充、レファレンスサービスの質的向上を図る一方、学校とのネットワーク事業の実施、情報技術の活用等々、多彩な事業を積極的に展開し、全国的にも高い利用状況にあります。しかし、社会環境の急速な変化に伴い、全国の図書館と共通する行政課題や本市独自の課題を抱えております。

また、平成20年には図書館法の大改正が行われ、公共図書館の運営状況についての自己評価とそれに基づく運営改善が努力義務化されました。それに伴い平成24年には図書館の基本というべき「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正され文部科学省より告示されたところです。それを受けて、本市においても図書館等の設置管理条例の中で図書館業務の評価と公表を定めたことから、評価の根拠となる指針を示す必要があると考え、これからの図書館運営の指針として、市川市の図書館の将来におけるあるべき姿を示す「市川市立図書館運営基本方針」を策定し、社会の変化や新たな課題に即応した図書館運営を進めてまいります。

本方針は、本市図書館の理念を示すものとして策定し、未来に渡って本方針の下に運営を行って参りますが、社会情勢の変化に応じ概ね3年ごとに見直しを図るものとします。

第3章 生涯学習推進の方向

1 基本目標

生涯を通して学び続けられる学習環境の実現

2 重点課題

グローバル化、少子高齢化へと社会が急激に変化する中、我が国は今、知識基盤社会（新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）への対応が求められています。

そのためには、市民一人ひとりが、生涯にわたって能動的に学び続け、その成果を地域コミュニティに生かしていくことのできる生涯学習社会の実現が必要であり、平成27年からの5年間の重点課題として、以下の2点を新たに設定することにしました。

■多様化・高度化する学習ニーズへの対応

■学び合い、支え合い、高め合う環境づくり

これは、第2期 教育振興基本計画に「成熟社会に適合した新たな社会モデル」として示された生涯学習社会のキーワード「自立」「協働」に相当する課題設定であり、新たな価値の「創造」につなげることができる環境づくりを目指そうというものとなっています。

3 基本的な考え方

■「人をつなぐ」

■「未来へつなぐ」

平成8年の生涯学習振興指針から導きだされた基本方針を引き継いでいますが、時代の変化や重点課題への対応を考慮し、第4次計画では、重点課題に対応する項目を新たに設定することとしました。

市川市教育振興基本計画の基本理念「人をつなぐ」「未来へつなぐ」を生涯学習推進のキーワードと捉え、

①地域コミュニティに関わる社会関係資本の連携協力を推進するとともに
②学んだ成果を地域社会に還元することができ、生きがいを持って社会・地域に貢献できるような体制づくり（家庭・学校・地域活動の支援）に取り組む

ことで、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会づくりを進めていきたいと考えています。

グローバル化、少子高齢化、知識基盤社会への対応を図る
生涯学習推進「6つの方向性」

(1) 市民の学習ニーズに対応した 生涯学習の環境づくり

- 学び直しや再チャレンジを目指す社会人への対応
- ライフステージに応じた生涯学習機会の充実
- 地域支援活動を目指す人材の育成

(2) ネットワークの充実

- 行政内の情報交換、事業面での連携強化
- 高等教育機関・NPO・民間企業等を含めたネットワークの連携強化
- 育成した地域支援人材とコーディネーター社会貢献活動を計画する団体等との連携強化

(3) 自然・風土・歴史・文化的資産の保護と活用

- 市内に残る貴重な自然・風土・歴史・文化的資産を保護し次世代に引き継いでいくため、学習資源としての活用を推進

(4) 家庭教育支援

- 親の学びを支援する体制の充実
- 親同士や家庭教育支援者との交流活動の推進

(5) 学校教育支援

- 家庭、学校、地域の連携強化
- 児童生徒の社会体験、生活体験の充実

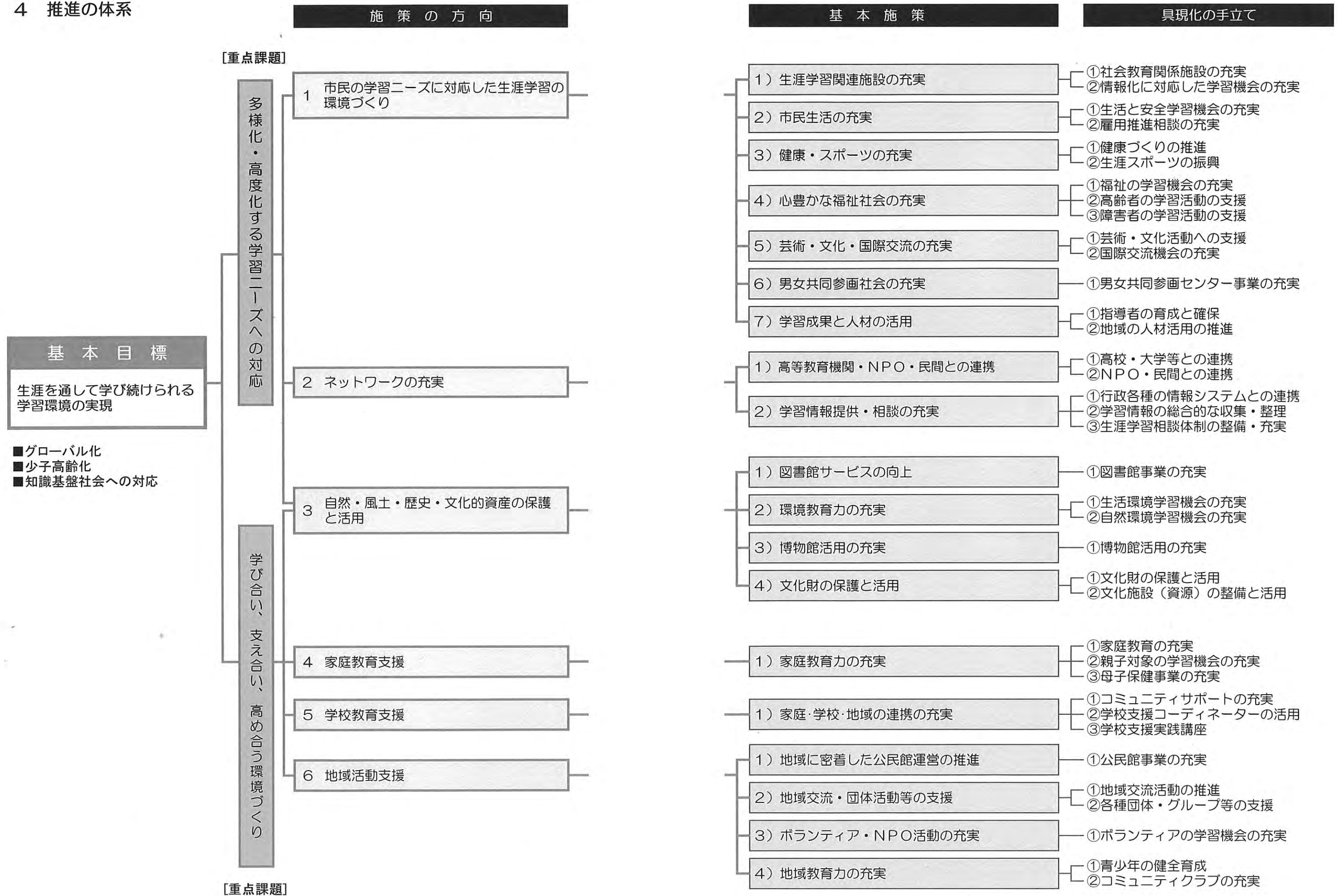
(6) 地域活動支援

- 社会教育施設を中核としたコミュニティの活
- 公民館を中核としたコミュニティの活

多様化・高度化する
学習ニーズへの対応

高め合う環境づくり
学び合い、支え合い

4 推進の体系



e－モニターアンケート結果報告書

2014/1/16

1	報告者	部名 担当課	生涯学習振興課	
		所属長名	牛尾 進一	
		担当者名	山岸 裕朋 関江 貴史	TEL 内4316
2	アンケート名称	生涯学習に関するアンケート		
3	アンケート結果 の市政への反 映状況	<p>生涯学習について、「これから何かを学びたい」「今まで学んだ知識や技術を活かしたい」という方が76%を占めていることから、生涯学習への関心の高さが伺える。</p> <p>「学びたい」と回答した方の多くは、公民館や図書館、小中学校をはじめとした市の施設での学習を希望しており、身近で気軽に学べる生涯学習を求めていることがわかる。このことから時間や距離等の制約で施設利用が困難な方に対しても、将来的にインターネットを活用する等、学習機会の充実に努めていく必要がある。</p> <p>また生涯学習の知識を「どのように活かしたいか」という設問に対して、「地域活動やボランティア」が47%、「他の人への生涯学習等の指導」が31%であることから、学んだ成果を活かすことができるような場を地域社会で提供する等、人材育成と活用を同時に図ることができるような「学習成果を活かす環境づくり」も必要であることが伺える。</p> <p>今回のアンケート結果を踏まえて、今後の市の生涯学習推進計画に反映させていく。</p>		

※アンケート結果受領後、eモニ事務担当者へ送付してください。

※報告内容は、市川市公式Webサイトに公開いたします。